

完成！富士山ミレニアムシティ第I期

(認定コネクトハウジング)

エコビレッジの新しいかたち！日本発・世界初のネットワーク・モバイル・エコビレッジ第1号！

富士山ミレニアムシティ第I期が完成・オープンしました！！

2011年3月11日の福島第1原発爆発事故をうけて、これからも日本各地で起りえる放射能汚染に対応すべく考案された全く新しい未来型防災エコタウンのプロトタイプがいよいよその姿を現しました。

その名は「富士山ミレニアムシティ第I期」。目の前に世界遺産となった富士山が大きく広がる絶好の敷地に日本の未来を救うべく、英知を結集した試作モデルが完成し、オープンしました。

その最大の特徴は容易に普通車で誰でもが運べること。目に見えず五感でもわからぬいおそろしい放射能汚染に対応するには、汚染された場所から容易に人も家も田畠も丸ごと避難できる必要があります。災害時には、重機や大型トラック等ではすぐに運んでくれないため、マイカーで自力で運べることが重要です。いくら地震に強く、機能的で快適な家をつくつても、工芸な田畠をつくっても放射能汚染には全く無力で3.11では一瞬にして町ごと村ごと畠ごと数万棟もの建物が廃墟と化してしまったことは周知の事実です。その土地を追われた人々は生活基盤のすべてとコミュニティもそして未来さえも失ってしまいました。このことは50基もの原発が全国にちりばめられた地震大国日本では、これからも次の瞬間にどこにでも起こりえることだといえます。このような特殊な災害のかたちに対応するには、原発再稼働等を平気で行おうとしている現在の日本においては全く新しいまちづくりモデルや建築のモードル、コミュニティモデルの提案をしていくことしか解決方法がないのは火を見るよりも明らかです。

そこでミレニアムシティではそれまで先進的と評価されていたネットワーク・エコビレッジの考え方をさらに進めて「ネットワーク・モバイル・エコビレッジ」という全く新しいまちづくり、コミュニティモデルを提案します。

わかりやすくいと、具体的にはエコロジーハウスや有機農場を細かく分割できるように、軽トレーラーに載せ、たとえば、寝室ユニットで1台、キッチンユニットで1台、浴室ユニットで1台、トイレユニットで1台となった各ユニットを分割して運んでいき、合体させると全体としてどこでもエコハウスの性能をもつように変幻自在に組み合わせるという考え方です。こうすると実際に家も畠もコミュニティもまちごとしかも普通自動車で誰でもが容易に移動できるため、かなりの部分、根本的な解決が可能になるといったモデルです。これらのエコ・サバイバル・モバイルハウスのひとつが合体移動ハウス・トリカーゴ(トリプレックス・カーゴ・トレーラー)です。

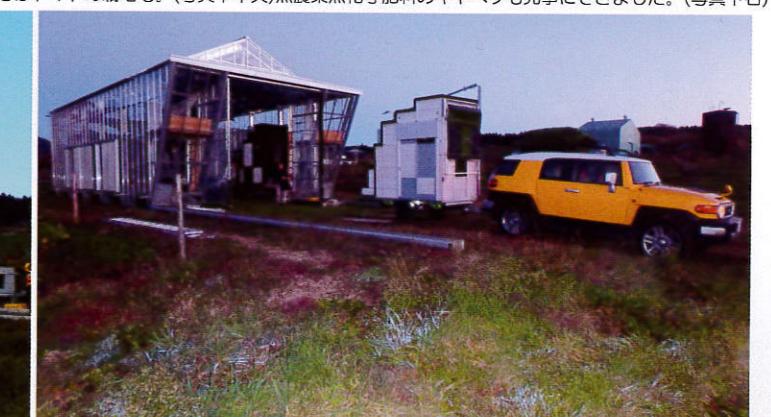
トリプレックス(TRIPLEX)とは、3倍という意味。2つの意味で3倍の性能をもっています。まず、3つの使い方ができるという3WAYの使い方。キャンピングトレーラーとしてレジャーに使え、災害時等の緊急時には、当面の避難施設としても機能し、場合によっては住宅として住むことも可能です。次に平面の床が1階部とロフト階そして菜園スペースや風力発電用の屋上ルーフスペースの3層になっていて、通常の3倍の利用スペースが可能というトリカーゴ。ソーラー発電や風力発電、バッテリー、屋上菜園ユニット、水廻りユニット、デッキテラス等のオプションをフルスペックにすれば、エネルギーと食糧の半自給自足が可能となることで、気持ち的にもほんとうに自由なくつろぎのスペースとなること間違いない！豊富なオプションを自由に組み合わせて、自分で選べ、自分でつくれ、自分で運べ、自分で住まうあなただけの自由空間を！軽トレーラーのため税金も超安価でお得。さらに、2つ以上のトリカーゴを組み合わせて合体させるとますます本格的住機能がプラスされていきます。基本となる寝室兼書斎ユニットにキッチンユニット、トイレ・洗面・洗濯ユニット、オフィスユニット等々を自由に合体させれば、もうほとんど高機能住宅。しかも、部屋の配置がえや、引越もラクラク。(荷造りほど不要のため)もともと車両なので、免震性能があるため地震や災害にもめっぽう強い。抜群のコストパフォーマンス。

また、くりもとミレニアムシティやあさひミレニアムシティの省エネ、エコハウスのノウハウとして農業用のグラスハウスで施設を覆うということをプラスするとエコ性能や快適性といつもアップすることができますから考案したのが「**移動型温室のアースシップ・ラップ**」です。ここではグラスハウス自体も移動できるため、農業として野菜等の作物をつくる際、連作障害に対応できるものともなっています。合体移動ハウス・トリカーゴをつつみこんで居住性能を格段に向上させるための保護被膜的役割がアースシップ・ラップ。台風等の悪天候時でも内部空間は快適。農業用の温室をベースに被膜材はガラスやポリカーボネート板やポリエチレンフィルム等から透明、半透明が選べ、ガラス天井が高い場合には、いつでも内部でバーベキューすることも可能。また、室内で野菜等の温室栽培をすることもできる等、トリカーゴとの組み合わせで多種多様な使い方が生まれます。アースシップ・ラップ。これは移動可能タイプと固定タイプの両方から選べます。大きさ、高さ、仕様はオーダーメイドも可能です。組合せも自由です。

以上のような、エコ・サバイバル・モバイルハウス等のご購入等、興味がある方は事務局までお問い合わせ下さい。詳細は(株)井口浩フィフス・ワールド・アーキテクツのホームページをご覧ください。

HP: <http://www.fifthworld-inc.com>

グラスハウス内ではトマトの栽培も。(写真下中央)無農薬無化学肥料のキャベツも見事にできました。(写真下右)

オーガニック
ボタジェを
つくりました
(混成農法の畠)
(写真左下)

アースシップ・ラップから合体移動ハウス・トリカーゴを運び出すところ



リカーゴと運べる段々畠も待機している



風力発電ユニットも折りたたんで、そのまま普通自動車で運べる機動性の高さ!



屋上には風力発電(約300w)や日よけパラソル、無農薬有機野菜プランツボックスでさまざまな野菜等を育て自給自足をめざす



ソーラー発電パネル(約230w)と無農薬有機野菜プランツボックスでエネルギーと野菜などの食糧の自給自足をめざす



合体するとこの通り、広々とした住宅風セットに(1番寝室、2番キッチン、3番浴室、4番トイレ・洗面台)その自在性と免震性ゆえ、究極の環境建築とも言えるでしょう。